

第二十五回 交野市・交野市星友クラブ 俳句大会 入選句

堀江 信彦(ほりえのぶひこ)選

【市長賞】

二十七、路地に延ぶチヨークの線路若葉風

【会長賞】

四十七、よみがへる大故の記憶花氷

【選者賞】

三十一、水底に水馬の影丸五つ

【特選】

三十、御目へと吹雪く石垣地蔵かな

四十三、向日葵の無人販売ワンコイン

【入選】

二、習い事今日は新緑ど真ん中

三、一本だけは糠漬けにして初胡瓜

九、もぎたての白桃重きたなごころ

十八、手の甲にメモる看護師酷暑かな

二十五、ただいまと跣足の形二つ三つ

堀江 信彦 選評

突然のご依頼に、躊躇もしましたが、前選者山田天氏とは俳人クラブで、またホトトギスで知らぬ仲では無し、俳句による「ご縁」の為せる業と思ひ、引き受けさせて頂くことになりました。「俳句を楽しく」をモットーに、日記のように詠み綴りたいと日々句作しています。宜しく、お付き合いください。

さて、今回、第二十五回交野市・交野市星友クラブ俳句大会にお寄せいただいた俳句は二十五人の五十句。甲乙つけがたい佳句がいくつもありません。今回は、作句の基本である「見て・視て・観て詠む」ことを基とし、句の持つオリジナリティーを大切に選を致しました。
三賞句についての「評」は次の通りです。

市長賞

二十七、路地に延ぶチヨークの線路若葉風

今日も街のどこかで、子どもたちの興じる声が聞こえて来そうだ。

白いチヨークで路上に描かれた線路。線路に入れば、誰もが子どもに帰ったように、特急電車の音やカンカンという踏切音の警報音まで聞こえてくる。夢中になって辿って行くと、線路は路地へ延びる。現実に立ち返ったところに、若葉風がー。なんとも清々しい一句である。

会長賞

四十七、よみがへる大故の記憶花氷

季題は「花氷」。エアコンが完備していなかった頃、デパートやホテルときには商店街などに、美しく涼し気な氷の柱が置かれた。色とりどりの草花が中に閉じこめられていて、思わず手を触れる。最近、あまり見かけなくなつた懐かしい風物に出会って、大故の一記憶が蘇る。「大故」とは戦争や災禍、または父母の死。ここは立派な葬儀の景を想像した。

選者賞

三十一、水底に水馬の影丸五つ

鋼のような六本の細長い足で水面を滑る。夏、池、川、湖などあちこちの水面に見られる水馬（あめんぼ）である。この句のポイントは、「丸五つ」。水馬は昆虫だから当然足は六本。しかし作者は「影丸五つ」と詠んだ。水馬が水底に映す丸い影は、日光の角度などで四つにも六つにもなる。作者が見た影は五つ。まさに、見て、観て、観て得た写生の一句。

特選

三十、御目へと吹雪く石垣地蔵かな

大和郡山城の逆さ地蔵か。吹雪と石垣地蔵との特異な取り合わせに、リアル感が溢れている。

四十三、向日葵の無人販売ワンコイン

平和で安全・安心な日本社会の無人販売機を一句に。向日葵にワンコインが効いている。

入選

二、習い事今日は新緑ど真ん中

さて、習い事とは……。作者ご本人ならテニスとかゴルフとか。1。「新緑ど真ん中」が作者の喜びを伝えている。

三、一本だけは糠漬けにして初胡瓜

胡瓜の初生り。収穫の喜びが伝わって来る一句。上五の「だけ」は不要だろう。

九、もぎたての白桃重きたなごころ

摘ぎたての甘い香りが伝わって来る。掌に感じる重さもまた白桃の

おいしさを物語る。

十八、 手の甲にメモる看護師酷暑かな

夏の厳しい暑さ。「猛暑」は気象用語。俳句は極暑・酷暑が季語。手の甲のメモさえ汗で滲む。そんな酷暑の看護師の激務を詠んだ。

二十五、 ただいまと跣足の形二つ三つ

「ただいまと」駆けこんできた子ども。床に描く裸足の足跡が、水遊びに興じていた子ども姿を彷彿とさせる。

― 選者紹介 ― 俳号 堀 江 信 彦(ほりえのぶひこ・本名)
一九四四年四月六日・新京市生(七十八歳) 豊中市在住

○所属

- ◇河内野 同人(河内野運営副委員長)
- ◇ホトトギス 同人(関西ホトトギス同人会事務局長)
- ◇大阪俳人クラブ(事務局長)
- ◇日本伝統俳句協会会員
- ◇俳人協会会員

○講師等

- ◇高槻市玉川・牧田コミセン俳句講座講師
- ◇木津川市老人福祉センター俳句講座講師
- ◇豊中市俳句大会選者

以上。